

ムコ多糖症という難病を知っているだろうか。今夏、この病気を支援するために、ミュージシャンと企業がガッチリと手を組んだ。人間の細胞内には、ライソゾームといわれる消化分解作用を持つ小器官がある。細胞が正常に新陳代謝を繰り返すことができるのは、このライソゾームが古い物質を分解し体外に排出しているからだ。ライソゾームには、複数の分解酵素があるが、先天的に分解酵素の一つが欠損している場合がある。そのために発病するのがライソゾーム病である。

ライソゾーム病に詳しい折居クリニック（岐阜県岐阜市）の折居忠夫院長は「酵素の数だけ病気があるといってもよい。現在、約50種類のライソゾーム病が確認されている」と語る。

ムコ多糖症はそのライソゾーム病の中でも、ムコ多糖体を分解する酵素が生まれながらにして欠損している病気。分解されないムコ多糖体が体内に蓄積し、内臓の肥大化や機能低下、全身の骨の変形といった重度の障害をもたらす。

現在、骨髄移植や体内に欠損している酵素を補充する治療が行われているが、ドナーが得られにくかったり、高額な治療費がかかる。患者やその家族の負担はもちろんだが、問題なのはこの難病が広く人間に認知されていないことだ。人気レゲエグループ湘南乃風の人気レゲエグループ湘南乃風の

人気レゲエグループ湘南乃風、音響メーカートップ企業ヒビノ

ミュージシャンと企業のコラボでムコ多糖症を支援!!

文=佐藤正生(編集部)
Text: Sato Masao



◀◀ムコ多糖症支援を積極的に訴える人気レゲエグループ湘南乃風(写真上)。当日の日中の気温は30℃以上あったが、「POWER OF ATAMIX'07」の会場である熱海観光港芝広場の熱気はそれ以上(写真左)。8月13~15日のコンサートはいずれも盛況のうちに終わった。



◀「音響の技術・クオリティを追求することは企業として当然。今後は、これまで蓄積したノウハウを社会貢献に役立てたい」(ヒビノ)。エンジニアもサウンドチェックに余念がない。

メンバー若旦那さんはこの病気の存在を知り、コンサート会場などで呼びかけている。その活動は徐々にではあるが、確実に浸透してきている。8月13・15日、ムコ多糖症を支援するために、静岡県熱海市の熱海観光港芝広場で開いた無料コンサート「POWER OF ATAMIX'07」もその一つだ。湘南乃風をはじめ、大黒摩季、RAGFAIRなどの人気ミュージシャンが多数出演。コンサートには3日間で約3万人のファンが詰めかけた。

今回、このコンサートには地元企業に加え、音響メーカーのヒビノ(東京都港区)が協賛し、会場の音響も担当した。

ヒビノは2006年2月に、ジャスダック証券取引所に上場。同社は「音と映像のプレゼンター」というコンセプトの下、プロ向けの音響機器の設計や販売、コンサート会場の音響など幅広く手がけている。同社がこのコンサートに協力したのは、旧知の間柄にある湘南乃風の活動に共感を覚えたことと、上場から1年半経過し、ステークホルダー(企業の利害関係者)への配慮が重要だと感じたからだ。

「単にお金だけでなく、自社の強みを社会に貢献していきたい。今後このようなイベントがあれば積極的に協力していきたい」(ヒビノ)と語った。